

神戸大学大学院 実習船「白鷗」の体験乗船会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会等を「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、神戸大学大学院のご協力のもと、8月3日（金）に実習船「白鷗」の体験乗船会を開催し、一般公募により当選した約 15 名の小学生の親子等が参加しました。

当日は、同大学院 廣野准教授の案内のもと神戸港を航行し、巨大な自動車船やコンテナ船、燃料油を積込中のフェリーなど様々な船舶を間近で見ながら、それぞれの船の特徴や役割のほか、生活に必要なものほとんどは船によって運ばれてくること等を知ることができました。また、コンテナターミナルや小麦サイロ（倉庫）のそばも航行し、コンテナの積み降ろしや小麦の荷役を海側から間近に見ることができ、参加者は普段の生活では見ることのない景色を楽しんでいる様子でした。



さらに、藤本准教授のサポートのもとでの操船体験も行われ、子供達をはじめとする参加者は大喜びでチャレンジするなど、船を身近に感じていただくことができました。参加者からは、「（自動車船の脇（ヤード）に電車が積み荷として置かれており、これから船で輸送されるとの説明を受け）車だけでなく電車も船で海外に運ぶことが印象に残った」「海外の輸出入の現場を間近に感じる事ができた」「船のことをもっと知りたくなった」などのコメントが寄せられ、海から見た普段とは異なる神戸港の姿を通して、船や海運についての理解が深まる体験乗船会となりました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

